

桜 木村 信乃 会長 より

如何お過ごしですか。昨年につづき今年もズームを使った桜栄会研修会 2 回目を開催しました。私は自宅の床の間に独座大雄峰の軸を掛けて参加しました。高い山の頂上に一人悠然と座っている自分を想像しておおらかになるのです。シンポジウム 2 名の方、そのあと講演、3 名の方にそれぞれの立場からお話をいただきました。時代の要望に応じた演題で介護食、きざみ食、ミキサー食、嚥下調整食からのなめらか食、食べれる食事の重要性、リハビリ期から自宅へ繋げる栄養支援について熱弁をふるっていただき大変参考になりました。栄養管理の幅広い知識と前向きな仕事へのスタンス、高度な調理技術の必要性を認識しました。その後 30 分ブレイクアウトセッションがあり、私は矢野さんのセッションに参加しました。ソフティアを使った滑らか食をどのくらい使うかと同級生からの質問、同じ萩出身同士からの励ましのエールがありあっという間に時間が過ぎました。さて会長の私、生きる糧に心のバランスがマラソンです。マラソンの先生が木村の走る姿を短歌にされたのでご披露します。

楽しみは 傘寿の脚にて マラソンす 悲願のサブフォー 達成の時

久しぶりの下関海響マラソン ネットタイム 4:13:41 でした。

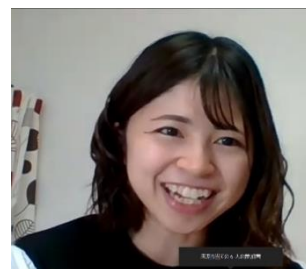
次期会には一人でも多くご出席ください。会員の皆様のお元気な姿にお会いできること、さらなる桜栄会の飛躍を心よりお祈りしています。



桜 山口県立大学栄養学科同窓会 桜栄会研修会を 栄養学科シンポジウムと合同でオンライン開催しました

2021 年 10 月 2 日に、令和 3 年度桜栄会研修会・栄養学科シンポジウムが合同で開催されました。3 名の卒業生からのご講演があり、企業・介護・リハビリ病院、それぞれの立場でご活躍されている様子について、Zoom を通してお話いただきました。

矢野侑紀さん(令和 3 年卒)は、ベストリハ株式会社で勤務されています。メディミール事業の業務内容や大学時代に実際にされていた就職活動についてお話されました。メディミールの強みは、安心安全の自社一貫製造で、豊富な品数の食事を内販・外販・真空配食していることだそうです。仕事においてのやり甲斐は、「利用者さんに直接感謝されたとき」や「自分の成長を実感できたとき」とのことでした。



松本実紀さん(平成 28 年卒)は介護保険施設アークスで勤務されています。自立支援介護をテーマに入所者の方と施設の畑で野菜を収穫し、調理を行っていらっしゃいます。食事を食べられない人、食べたくない人に向けて食べることに対する楽しみや意欲を高める声かけや工夫があり QOL の向上を目標に食事環境の調整を大切にされています。また、「生化学検査が少ないため、低栄養リスクの判断基準が少ない。そのため療養食の継続判断に迷う」という介護施設ならではの課題もあるとのことでした。

斉藤茜さん(平成 16 年卒)は徳山リハビリテーション病院で勤務されています。静岡の特別養護老人ホームでの経験を経て、嚥下食や低栄養に対する知識を活かして幅広くご活躍されています。お話の中で大切にされていたことは「栄養を食べもので表現する職種である自覚を持つこと」「安全でおいしい食事を提供すること」でした。リハビリテーション栄養において管理栄養士への期待は大きく、管理栄養士が積極的に活躍すべき領域であり、NST



のチームの一員としてリハビリテーションの効果を最大限に引き出す栄養管理が求められているということをお話いただきました。

3つの立場からのご講演をいただきましたが、共通しているのは「対象者に寄り沿ったサービスを提供する」ことであると思いました。何が求められているのかを考え、行動していきましょう。

(栄養学科3年 上甲・堀本・原田・平連)

昨年に引き続き、今年度も栄養学科シンポジウムと合同で研修会を開催させていただきました。当日の進行やこの桜栄会通信の原稿は担当の在学生4名(3年生)が作成してくれました。当日は至らない点もあったかと思いますが、あたたかく見守っていただきまして、ありがとうございました。



参加者の感想

2000年に介護保険制度がスタートし、私はヘルパー→介護福祉士→介護支援専門員と、仕事をしながら資格を取り、今は地域包括支援センターで主任ケアマネをしています。ご本人の生き方を支えるため、医療・介護等の多職種の方々の、連携を調整する仕事です。管理栄養士職に就く機会はなかったのですが、桜栄会研修は、ケアマネ研修で学ぶ内容とかなり重なりがあり、私はここに戻ってきたのかと、感動を覚えました。人生の選択は色々あると思いますが、栄養学はどの生き方でも役立つ、素晴らしい学問だと感謝しています。

昭和57年卒業 井上(高澤)多智美 東京都在住

リハビリテーション施設における管理栄養士の役割についてお話していただきました。職種全体で考え、協力しながら患者様に寄り添う食環境を提供する姿勢に感銘を受けました。回復期リハビリ病棟で低栄養患者が4割を占める現状がある事を知り、栄養管理については高たんぱく高脂質のパワーライスの導入など、様々な対策が行われていたこともとても印象的でした。

栄養学科3年 上甲

現在は、行政の管理栄養士として勤務しています。在学中は先生方に新しい情報を何でも教えて頂ける環境がありましたが、就職してからは自ら学ぶ意欲を持ち続けなければ、得られない情報の多さに苦戦しています。管理栄養士の職場は少数配置が多いので、情報を得たり、相談したりできる繋がりがあるということは、とても心強いものです。今回、久々に研修会に参加させていただき、多くの先輩や後輩、先生方と繋がることのできる桜栄会のありがたみを改めて実感しました。また、大変良い刺激を受け、励みになりました。ありがとうございました。

平成22年卒業 石田(石坂)綾子 福岡県在住

管理栄養士として様々な職場でご活躍されている先輩方の貴重なお話は、管理栄養士の仕事内容の幅や在り方を学べたと共に就職活動の意欲に繋がりました。縦の繋がりを感じられる機会を設けてくださったことで、残りの大学生活の過ごし方や将来像を見直すきっかけになりました。お話ししていただいた先輩方に感謝し、今後の勉学に励みたいです。

栄養学科3年 平連

編集後記

暑い夏がずっと続き、秋が無いまま急に冬がやってきた今年の季節の移り変わりの中、キャンパスの紅や黄に染まった木々を眺めながら、やっぱり秋がやって来た！と、自然の帳尻合わせに感心したものです。異常気象と同様に、これからは予測できないことや今までの延長線上にないことが起こり、私たち管理栄養士に求められることも、その時代により変化していくことでしょう。しかし、どんな時でもそれに応えようと同じ思いで頑張っている同窓生がいることを、忘れずにいてほしい。上手な情報発信と上手なSOS発信の場に、この桜栄会がなれたら良いなと、今年の研修会の様子を見ながら強く思いました。

ご意見ご要望等、事務局のメールアドレス oueikai@yamaguchi-pu.ac.jp にお寄せください。 乃木

